



2008年10月3日

J.フロント リテイリング株式会社

代表取締役社長兼最高経営責任者 奥田 務様

社団法人 日本建築家協会 (JIA)

関東甲信越支部

同 保存問題委員会

同 神奈川地域会



### 「横浜松坂屋本館」の保存活用に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥の事とお喜び申し上げます。

貴社におかれましては、日頃から当協会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、6月24日付神奈川新聞等におきまして、貴社傘下の横浜松坂屋が百貨店事業から撤退し、本館を建て替え、複合施設を建設する旨の報道がなされました。

ご高承のように、横浜松坂屋本館は、隣接する旧松坂屋西館と共に横浜に戦前から残るデパート建築の希少な実例です。現在の建築は、1921（大正10）年1月に建てられた野澤屋呉服店を母体としているものと考えられていますが、1929（昭和4）年から1963（昭和38）にかけて、少なくとも5度の増改築を重ねています。その間、伊勢佐木町通りの絵はがきにもたびたび描かれるなど、横浜の繁華街伊勢佐木町の歴史、記憶が堆積した貴重な建築です。

1921年に建てられた建築は建築家出浦高介によるものでしたが、その後、夏目漱石の義弟である建築家鈴木禎次により増改築がなされ、1934（昭和9）年に現在のファサードのデザインに統一されました。テラコッタによる装飾やタイル貼りが施されたファサード、エレベーターホール、エスカレーター廻りのデザインには、1920年代に流行したアール・デコ様式が取り入れられており、その緻密なデザインは、日本に現存するアール・デコ様式の中でも特に質の高いものと言えます。

鈴木禎次は、1896（明治29）年に東京帝国大学造家学科を卒業後、1906（明治39）年に名古屋高等工業学校建築科長となり、教育者として活躍する一方、古典主義建築の基礎の上に様々な装飾を取り入れ建築を設計した、優れた建築家です。代表作として、旧名古屋銀行本店（現中央信託銀行名古屋支店）、旧松坂屋大阪店（現大阪高島屋東別館）などがありますが、特に、横浜松坂屋本館は鈴木晩年の大作として重要であるばかりではなく、彼が関わった戦前の3度に渡る増改築のプロセスの中に、設計の思考過程が表現されていることも貴重であると言えます。横浜市が、2004（平成16）年に認定歴史的建造物に認定し、翌2005（平成17）年には外観保全改修工事の助成を行ったことも、この建築の重要性を明らかにしていると理解できます。

隣接する旧松坂屋西館が、耐震改修を行い、コンバージョン（用途転換）しながら使い続けられているように、横浜松坂屋本館がその歴史、記憶を継承し、オーセンティシティ（真実性）に配慮しながら保存活用されることが望まれます。また、そのことにより、貴社による横浜松坂屋本館の計画が、旧松坂屋西館と対になった伊勢佐木町の歴史的景観を保持する上で重要な役割を果たし、伊勢佐木町の未来を見据えた意義あるものとなるばかりではなく、来る横浜開港150周年を飾るにふさわしい事業となるものと確信しております。

なお、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、及び同保存問題委員会、同神奈川地域会は、横浜松坂屋本館の保存活用にできる限りの協力をさせていただくことを申し添えます。